

作文部門1部 —小1~小3—

・優秀賞

えがおのごはん

根城小学校（八戸市）

一年本間美羽

「みうのつくったごはん、おいしいね。」
「おばあちゃんのつくったやさいが、おいしいからだよ。」

わたしは、おじいちゃんとおばあちゃんがつくったやさいが、とっても大きいです。おすすめは、ミニトマト。とわだにいつたときはいつも、はだけのさきようをお手つだいしています。はたけのおてつだいをしていると、きれいなやさいも、おいしくみえます。さらに、むのうやくだから、あんしんです。そのおかげで、だいきらいだったミニトマトを、すこしきなになりました。

おとうさん、おかあさんとそだんして、いつもおいしいやさいをつくってくれるおじいちゃんとおばあちゃんに、ごはんをつくることにしました。もちろん、しゅやは、おじいちゃんとおばあちゃんがつくってくれたやさいです。

はじめに、おじいちゃん、おばあちゃんと、やさいをとりにいきました。なす、とうもろこし、おくら、きゅうり、もちろんミニトマトもしゅうかく。おうちにかえってからは、おとうさん、おかあさんとおりょうり。まずは、大きいなすや、まがつたなすがとくちようのなすのにくづめ。つぎに、ねばねばのおくらや、あまいミニトマトがたくさんはいった、なつやさいたっぷりのサ

ラダそば。さいごに、あまいとうもろこしと、おじいちゃんのだいすきなしらすチャーハンをつくりました。
みんな、もりもりごはんをたべて、

「おいしい。」

といつてくれて、いつものごはんよりおいしいかったです。おじいちゃんは、チャーハンをおかわりしてくれました。すごくうれしかったです。おいしいやさいと、おいしいごはんがあれば、みんなえがおになるとおもいます。こんどは、あきのやさいで、おりょうりしてみたいです。エプロンとテーブルをよごしても、きょうは、おこられませんでした。



・優秀賞

大切なおべんとう

第一田名部小学校（むつ市）

三年 藤田 悠月

わたしは五才の弟といつしょに空手を習っています。弟がほいく園バスからおりたらすぐに道着に着がえてけいこに向かうので、空手の日はお母さんがおべんとうを作ってくれます。わたしは、けいこに向かう車の中で食べる、お母さんのおべんとうが大すきです。

おべんとうの一番の楽しみは、おにぎりです。しらすやしやけ、わかめをまぜたおにぎりが入っています。ごはんのあまみと、しおのしょっぱさがぜっ品です。わたしはもとからおにぎりがすきですが、なぜか車で食べるおにぎりはいつもより、もっとおいしく感じます。お母さんが、

「今日も空手がんばってね。あいじょうこめてにぎったからね。」

とわらいながら言っていたので、そのおかげかもしません。

空手のけいこを一生けんめいがんばると、家に帰るころには、またおなかがすきます。

帰りの車で食べるおにぎりも、ぜっ品です。お母さんのおべんとうには、小さめのおにぎりが三つ、ワインナーとたまごやき、この前はお父さんがつってきたイカで作ったイガメンチが入っています。

ました。家ぞくで育てているミニトマトも入っていました。弟と、すきなおかずをこうかんしながら、おべんとうを空にします。そんなわたしも、一度だけごはんを食べずに空手に行つたことがあります。その日は、なんだかいつもより体に力が入らず、思うようにけいこができませんでした。おなかもぐうぐうなつていました。今までそんなふうになつたことはないので、ごはんを食べないと力が出ないというのは本当なんだなと感じました。それからは、けいこの前に必ずごはんを食べています。おいしいごはんに感しやして、次のけいこもがんばります。次は、わたしがおにぎりを作つてみたいです。



作文部門1部 —小1～小3—

・優秀賞

ぼくのだいすきなごはん

新郷小学校（新郷村）

一年中平尋十

ぼくは、ごはんがだいすきです。

「ごはんっておいしいな。」

と、ぼくがいつたら

「このごはんはね、ひろとがおてつだいをしてできたおこめをた
いたんだよ。」

と、おかあさんがこたえました。ぼくは、びっくりしました。は
るに、ハウスのなかにそだつていたくさに、おみずをかけるおて
つだいをしました。そのくさがおこめだったのです。それを、お
とうさんとおかあさんがたんぽにうえたのだとおしえてもらいま
した。ぼくがおてつだいをしてできた
ごはんだとわかつたら、もっとごはん
がおいしいなあとおもいました。

ことしのはるも、おみずをかけるお
てつだいをしたので、あきになつたら、
おこめができるのがたのしみです。お
こめがいっぱいできますように。



・優秀賞

おじいちゃんのおこめ

三条小学校（八戸市）

一年斎藤優有

ぼくは、めんたいごはんがだいすきです。あたたかいごはん
にめんたいこをのせると、ごはんがなんばいでもたべられます。

ぼくがいつもたべているおこめは、ぼくのおじいちゃんがつく
つてくれたおこめです。おじいちゃんは、いわてけんにすんでい
て、いつもはちのへしまでおこめをおくつてくれます。

ぼくがほいくえんのとき、たうえといねかりをしたことがあり
ます。そのときぼくは、おこめができるまでには、とてもながい
じかんがかかることをしりました。たうえやいねかりだけでなく、
たんぽをたがやしたり、みずをいれたりとめたり、たくさんし
ごどがあります。それをいつもひとりでやっているおじいちゃん
はほんとうにすごいし、かつこいいです。

ぼくは、おじいちゃんがいつしょうけんめいつくつてくれたお
こめをそまつにしないでたいせつにたべます。ぼくがおおきくな
つたら、おじいちゃんといっしょにたんぽのしごとをしたいです。
ころなでなかなかあえないけれど、おじいちゃんのおこめをた
くさんたべて、べんきょうやさっかーをがんばります。

おじいちゃん、いつもおいしいおこめをありがとうございます。

作文部門1部 —小1~小3—

・優秀賞

お米作りは大へん

江南小学校（八戸市）

三年西村理世

いとだめなんだなと思いました。
「どういう思いでお米を作っているの。」
と聞いたら、おばあちゃんが
「みんなにおいしいお米を食べさせたいという一心で作っている
よ。」

と答えました。わたしは、そういう思いでお米を作ってくれている
と聞いたら、おじいちゃんとおばあちゃんが
「みんなにおいしいお米を食べさせたいという一心で作っている
よ。」

と聞いたら、おじいちゃんとおばあちゃんが
「みんなにおいしいお米を食べさせたいという一心で作っている
よ。」

わたしの家では、おじいちゃんとおばあちゃんが作っているお
米を食べています。お米がなくなると、すぐにとどけてくれます。

お米のことあまり知らなかつたので、インターネットで調べ
たり、おじいちゃんとおばあちゃんに聞きに行つたりしました。

「どんな仕事が一番大へんなの。」

と聞いたら、おじいちゃんとおばあちゃんは

「なえ作りが一番大へんだよ。」

と答えました。なえ作りについて調べると、お米を作るときは、
お米のたねもみを田んぼにまかず、めが出て大きくなるまで育び
ようばこで育てるのがなえ作り、と書いていました。わたしは、
なんでもめが出て大きくなるまで育びようばこで育てないといけな
いのかなと思ったので、調べることにしました。めが出てすぐは、
温どに気をつけながら育てると書いてありました。わたしは、お
米作りにこんな仕事もあるんだなと思いました。

「何日に一回様子を見に行くの。」

と聞いたら、おじいちゃんが

「二日おきに様子を見に行つてているよ。」

と答えました。わたしは、それくらいこまめに様子を見に行かな

